

藁科川橋床版工事

鋼2主桁橋の長支間場所打ちPC床版の床版工事



施主	日本道路公団
契約先	宮地鐵工・瀧上工業 共同企業体
施工場所	静岡県静岡市
完成年	2003年
橋長	300m (中工区) (上・下線)
形式	鋼4径間連続非合成箱桁橋 (中工区) (上・下線)
全幅	18.053m (上・下線)
床版形式	プレキャストフォームを用いた場所打ちPC床版
床版施工方法	移動作業車による場所打ち方式
床版支間	8.8m (鋼箱桁の中心間隔)、11m (鋼2主桁桁橋部)
床版厚	箱桁橋部 460mm (最厚部) 260mm (支間中央) 鋼2主桁桁橋部 530mm (最厚部) 260mm (支間中央)
横締めPC鋼材	28.6mm (プレグラウト)
受賞	土木学会 田中賞 2003年 PC技術協会 作品部門 2003年
参考文献	橋梁と基礎 2002年 10月

鋼橋の施工において「省力化および機械化施工」を基本思想として長支間の場所打ちPC床版形式が選定された。

鋼箱桁は、逆台形の狭幅断面で、箱桁の上面はPCF(Pre-Cast Form)版で支保工を兼ねた埋設型枠で有効断面として機能する。

中央の支間部の床版の下面形状は、放物線形状となっている。床版の施工は、移動式の作業車で行われ、最大打設長は12mであった。



移動作業車



施工状況



PCF版敷設



床版コンクリート打設後



鋼板部分の鉄筋組立



桁下より